

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100130		
法人名	特定非営利活動法人(NPO法人)三和会		
事業所名	グループホーム かわらはま		
所在地	前橋市河原浜町21番4		
自己評価作成日	平成24年7月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を楽しめる外出行事や地域の方による歌・踊り・尺八・お茶・お花などのイベントを通して利用者様と交流をしながら楽しめるサービスを提供しています。
 日々の生活ではホーム菜園で取れた野菜を食べ利用者様同士喜びを実感したり、調理・食器片付け・洗濯たみ・掃除等を利用者様にお手伝いして戴ける所は職員がサポートしながら残存機能維持向上の取り組みを行っています。
 一人一人の利用者様が、安心して笑顔でいられるやすらぎの空間と思えるサービスの提供に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げている「個人の意思と人権を尊重し…」に沿って利用者一人ひとりの思いを大切に考えた対応により、利用者は周囲や職員を気にすることなく、自由に思いのままに行動している様子。まさに理念を日々の生活の中で実践していることを訪問中実感することが出来た。地元ボランティアの慰問が多いこと、家族や友人の訪問、在宅時の習い事の継続等、地域との関わりや馴染みの関係が途切れることがないよう日々の対応が行われている。これまで意識せずに利用者が発していた言葉を利用者がどのように受け止めるかを考え、「スピーチロック」について職員は話し合い、言葉遣いに配慮しながらの対応に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有し、地域住民の一員として自由に生活できるような環境づくりを心がけ地域に溶け込めるように職員全員で支援している。	「利用者の個別支援と地域との共存」を盛り込んだ事業所独自の理念が作成されている。毎日の申し送りや会議等で理念に触れ、職員は共通認識を持って理念の実践に取り組んでいる。目に付き易い玄関等に掲示して、対応を振り返る機会を持つようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設に近隣の住民の方が歌・踊り・尺八・お茶・お花等の慰問に来て頂き交流をし、地域のお祭りやイベントにも参加するようになっている。	地域のお祭りやイベント等の行事に参加したり、近隣居住の職員との関わりもあって地元の方々が尺八・唄・踊り・お花・お茶等の慰問に訪れており、交流の機会を多く持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達にグループホームの役割・認知症という病気の病状など機会がある際には説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族が発言しやすい環境を整え、意見や苦情等を職員全員で検討し改善している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、行政・地域・事業所の関係者と家族等の参加で開催され、活動報告や介護保険改正・認知症の話等を行い意見交換をしいる。家族から「施設で転倒事故が多いと聞かかここではどうか？」等の質問が出され話し合って対応に反映させている。会議の内容はお便り「かわらはま」で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市に運営推進会議の参加依頼を提出する際、現状を報告したり不明な点を聞いたりしている。	運営推進会議への参加依頼や代行申請のために市の担当者を訪れた際に、事業所の状況や利用者の暮らしぶりの報告をしたり、不明な点の質問・相談等をして連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として拘束をしないという考え方を職員全員で理解している。また「身体拘束廃止推進委員研修」に参加し、研修内容を施設職員に報告をしている。	「身体拘束廃止推進委員研修」に参加し、研修内容を職員に報告、全職員が共通の認識を持って実践につないでいる。日中、玄関の施錠はせず、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。最近スピーチロックに注目し、言葉使いに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進委員(身体拘束廃止推進委員)養成研修等の研修に参加したり、施設内で高齢者虐待の勉強会をして知識を深め職員一人ひとりが防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修内容を施設で勉強会として行い、一人ひとりのレベルアップを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、質問をしやすい環境づくりを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で運営に関する情報も公表し、意見を反映できるようにしている。	利用者の要望は日頃の生活の中で、家族等の意見や要望は推進会議や来訪の際に気軽に会話を交わしながら察知するようにしている。家族から「まな板の消毒や盆栽を持ってきて良いか」等の質問が出され、それら意見は話し合っサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の際に意見を検討し、反映させるようにしている。	ミーティングや会議で意見や要望を聞いている。管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。職員の意見等もあって、現在、会議を事業所とは別の場所で行っているが、不都合な点があるので、今後のことを職員の意見を聞きながら検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や働きやすい環境を整えるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や経験を把握し一人ひとりに合った研修になるべく参加できる環境を作り上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修や勉強会に参加し、他施設職員との交流ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御本人の意向を十分聞いたうえで、より良いサービスの提協ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御家族の意向を十分聞いたうえで、より良いサービスの提協ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の意向を十分に理解した上で、色々なサービスの方法を考え提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と職員と一緒に生活しているという意識を持ち、支えあいながら人生を歩む関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を中心に家族と施設職員が協力し、共に生きる家族となれるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ御家族・友人に来ていただけるように来所しやすい環境や言葉がけを心掛けている。	友人・元同僚や教え子・家族等の訪問があり、職員は訪問者が気持ちよく会話を楽しめるよう配慮している。定期的に孫と書道教室に通ったり、馴染みの床屋に出かけたり、使い慣れたうがい薬や歯磨き粉を使用したり、友人からの電話を取り継いだりと関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や趣味・個性などを十分に把握し、利用者さん同士の関係が円滑にいくように職員が間に入りいい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの御本人・御家族の関係をいつまでも継続できるように、何かあれば相談しに来ていただけるような言葉かけや環境を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望をモニタリングや普段の生活の中から吸い上げ、希望に添えるサービス提供を柔軟に支援している。	利用者の日頃の生活での様子・振る舞い・言動等から、利用者の思や要望を推し量り、その思いに沿った対応に努めている。意思疎通の困難な場合は家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境や生活歴などを御本人や御家族より聞き、その人をできるだけ理解できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況を朝のミーティングで報告しあい情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の希望を取り入れ、職員全員及び医療関係者も含め話し合い工夫しながら介護計画を立てている。	入居時の家族アンケートや本人の思い等を基に、担当者の意見を踏まえて、ケアマネジャーが介護計画の素案を作り、関係者で話し合っって計画を作成している。月に1回のモニタリング、3ヶ月毎の定期的な見直し、状況に応じての随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法の成功例や失敗例をノートに記載し、情報共有できるようにしている。また、それをミーティングにて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのその日の体調や気分に合わせて外出したり、イベントをしたりして柔軟に対応できるような環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の得意不得意を把握し、残存機能維持向上生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望を聞き、希望に沿った医療機関の受診をしていただけるようにしている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。これまでのかかりつけ医の受診は家族が対応し、協力医の場合は職員が同行して、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護師と身体機能の変化を随時連絡して処置方法を指示していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携し適切な入院治療を受けられる支援を行い、退院時は医療機関や御家族との情報交換を密にし、早期退院できるような環境づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を入所時に説明し、理解していただき同意書をいただいている。	「重度化した場合の対応にかかわる指針」が作成されており、入居時に本人・家族等に説明、同意を得ている。状況の変化に応じて、本人・家族等・医師・職員等の関係者が連携を取り、随時意思を確認しながら対応している。1名の方の看取りを経験している。終末期の対応についての学習の場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は代表者・管理者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年4回実施し、全職員が訓練できるように行っている。地域の方達には火災等おきた場合、協力を御願している。	消防署立会と自主訓練を合わせて年に3回、総合防災訓練を昼夜を想定して実施している。近隣者には災害時の協力を要請している。備蓄として飲料水や魚・フルーツ等の缶詰が用意されている。	いざという時に慌てずに避難誘導が出来るよう、年間を通じた自主訓練の機会を持つことを検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を持ち一人ひとりを尊重した言葉かけを徹底している。	人生の先輩としてひとり一人を尊重した対応、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、特にトイレ誘導時の声掛け等の配慮には留意している。個人情報については徹底した管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように職員が選択肢を提供して決めていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなくあくまでも利用者さんのペースや希望に合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく御本人の希望に沿って清潔な身だしなみができるように職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの希望に沿った献立を入れながら、状態に合わせて食事を考え、準備や片付けを職員と共に行っている。	利用者の希望を取り入れた献立により、食材の買い物、食事の準備や片づけを利用者は出来る範囲で職員と一緒にいき、共に食事を楽しんでいる。おやつ作りをしたり、時には雰囲気を変えて食事を楽めるよう外食の機会を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェック表にて把握し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた口腔ケアを毎食後行えるように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ残存機能を活かし、排泄が行えるようにその人に合った支援を行っている。	排泄チェック表により、各利用者の排泄パターンを把握しての誘導、特有の仕草からの気づきによる対応等を行っている。失敗した時には居室で対応するよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄パターンを把握し、御本人の希望や医療機関とも連携し、その人に合った排泄コントロールの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間・曜日は決まっているが、そのときの気分や体調によって変更できるようにしている。	基本的には週に3日の入浴支援で、曜日、時間を決めていますが、利用者から希望があれば対応する。入浴拒否の場合は言葉かけなどの工夫で対応している。	職員の都合で曜日や時間を決めてしまわずに、希望に沿って対応することを利用者に伝え、利用者の気持ちを大切にしたい個別の入浴支援を検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや心身状態を把握し、自由に生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報は入所前に職員全員で確認し、身体状況の変化があった場合は主治医と連携し症状に合わせた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好みを把握し、張り合いのある生活ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの希望に合わせて戸外に出られる支援をし、御家族と共に気軽に外出・外泊できるような環境を提供している。	散歩・ドライブ・季節ごとの花見・食材の買い物・中庭でのお茶・家族との外出等、出来るだけ戸外に出て気分転換を図る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には施設が行っているが、本人の希望でお財布を保管されている方もいる。また外出の際には自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に外部の方と連絡が取れる様に手紙や電話を自由にやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような草花や飾り付けをし、やすらぎの生活空間を提供できるように心掛けている。	食堂兼居間の大きな窓から庭や菜園、更に周囲の景色が見渡せ、生活感・季節感を味わうことができる。行事の写真・利用者の作品・利用者共同制作の置物・ボランティアさんが持ってくる写真等が飾られて、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの利用者さん同士のふれあいの場所や一人で日向ぼっこができるようにソファを配置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はなるべく自分の部屋あったものを持参していただき、今までの部屋と似た感じの居室作りを行っている。	テレビ・書籍・寝具・家族の写真・テーブル・椅子・衣装ケース・利用者本人の作品等の馴染みのものや思い出の品々が持ち込まれており、個別性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、できない部分を職員が支援させていただき、安全安心して生活できる環境づくりを心掛けている。		